

# ますざわ

鱒沢地区まちづくり計画だより

第4号

平成30年10月18日発行

【発行元】

鱒沢地域づくり連絡協議会  
事務局

(鱒沢地区センター内)

TEL 67-2115 (内線152)

FAX 67-2157

## 事業化に向け盛り上がり

### 地区まちづくり計画の事業を検討

9月26日(水)に、開催した第4回地区まちづくり計画策定ワークショップでは、「やってみたいことを絞り込む」をテーマに、これまでに話し合ってきた、事業案について、内容の練り上げを行いました。



↑ 生業・食チームの発表の様子。回を重ねるにつれ発表にも熱が入ってきました。

「集い・にぎわい」チームは、「くパブリックビューイングますざわ」をキャッチフレーズに、鱒沢地区センターの活用として集いの場所の創出などについて、「子育て・移住促進」チームは、「鱒沢は毎日バレンタインデー♡」として、鱒沢の地域を活用した婚活イベントの開催について、「生業・食」チームは、「笠通に湧きたる清水の里!!」として、体にいい山野草の特産品にできないか検討するための試食会や、高齢化などにより維持が難しくな

っている農地の管理について、「暮らし・お互い様」のチームは、「ここで生きる」としてアンケート調査でも意見の多かった外出環境の整備について、高齢者等が鱒沢で住み続けるための方法について、「体験・交流」のチームは、「美桜人(びろうど)に会いに行こう会『おんでつてがんせ』として、農家の女性を『美桜人(びろうど)』という造語を作り、地域の人材の再発見や再評価を行う取り組みについて、「自然・景観・地域資源・郷土文化」では、釣り大会や環境整備によるにぎわい創出について話し合いました。

## 次回WSで計画案の最終検討

### 計画策定向けた最後のワークショップ

計画策定に向けて行ってきた鱒沢地区まちづくり計画策定ワークショップも、最終回を迎えます。次回のワークショップでは、これまでの話し合いをもとに作成した計画案についての話し合いを行います。ぜひご参加ください。

## アンケートの結果について

### 報告書の概要と分析

8月に実施した「鱒沢地区の暮らしと地域づくりに関するアンケート調査」について、調査報告書が完成しました。報告書の冊子が欲しい方は、鱒沢地区センターで配布いたしますので、地区センターまで、ご連絡願います。

なお、報告書の概要版として結果の分析と概要については、裏面でご報告させていただきますので、ご覧ください。

回答いただいた皆様から、たくさんのご意見をいただきました。地区まちづくり計画の重要な資料として活用するとともに、ご協力いただいた皆様に、深く感謝申し上げます。

第5回鱒沢地区まちづくり計画策定ワークショップは、**10月31日(水)午後7時から**

**宮守老人憩いの家**で開催します。

自由参加ですのでお気軽にご参加ください。詳しくは、鱒沢地区センターへご連絡願います。



# 鱒沢地区の暮らしと地域づくりに関するアンケート調査報告書（概要版）

## 1 調査の目的

今年度、鱒沢地区では将来にわたり、活力ある地域と安心して暮らせる地域を目指して、「鱒沢地区まちづくり計画」の策定に取り組む。計画の策定に先立ち、地域住民が考える「こんな地域になったらいいな」や不安や課題に思っていることなどについての意見を聞き、計画づくりに反映させることを目的として実施する。

2 実施期間 8月2日から15日まで

3 回収数 世帯回収戸数 277戸（鱒沢地区全世帯数374世帯 7月末時点）

回収率 74%

個人回収票数 472票（鱒沢地区人口920人 8月時点※15歳以上人口）

回収率 51%

## 鱒沢地区の地域活動について

### 1 昨年参加した地域活動

行政区ごとでは、すべての区で8割の方が役員もしくは一般参加として、地域活動に関わりを持っているが、世代別に分析すると、20代及び30代の不参加率が5割を超している。

### 2 地域活動別の参加度

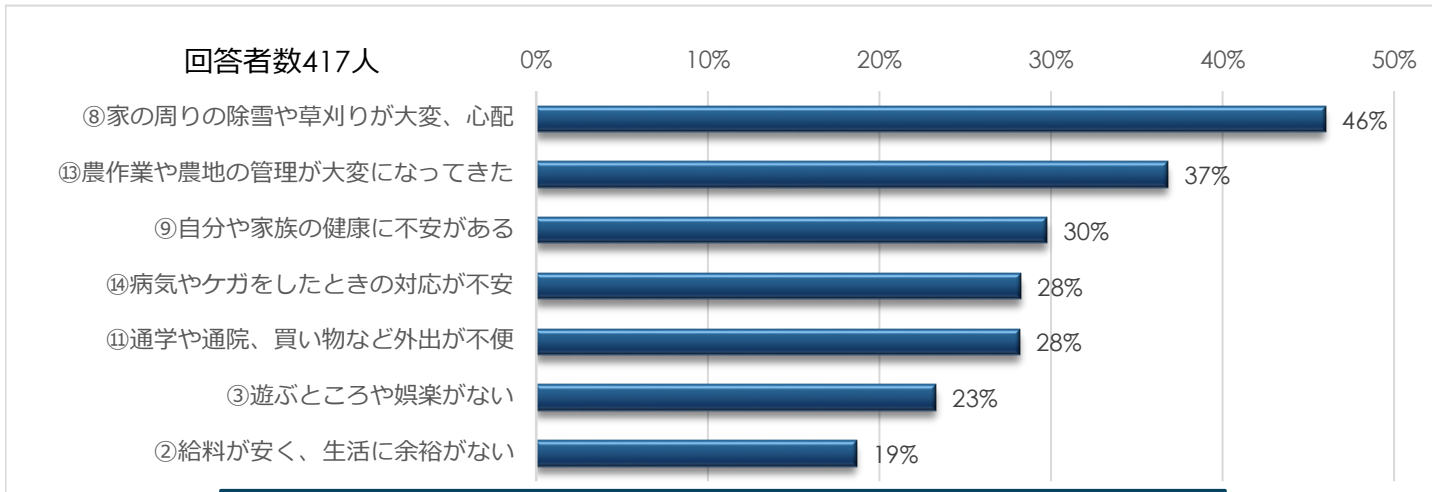
活動ごとにみていくと、集会所清掃・整備が最も高く、回答者の48%が参加している。環境整備等に関わる活動への参加度が高い傾向にある。イベント活動では、リバーサイドまつりと躍進みやもり祭への参加度が最も高いが、15%程度であり、自治会活動への参加度のほうが総じて高い傾向にある。

### 3 役員や事務局経験

役員や事務局経験は、全体では53%が「経験ある」と回答している。年代別で分析すると、40代から60代までは、役員や事務局経験がある方が6割を超しており、地域活動の中心を担っていると考えられる。

### 4 生活するうえで、困ること不安なこと（表1）

「家の周りの除雪や草刈りが大変、心配」が48%と最も高い割合であり、世代別に分析しても10代を除いた全世代で高い割合を示している。また外出環境に対する不安は、各世代でみてもばらつきがなく高い傾向にある。この2つの項目以外は、世代間で回答にばらつきがあり、自分や家族の健康不安と、病気やケガをしたときの対応に対する不安は、60代以上で高い傾向にあり、逆に、遊ぶところや娯楽がない、給料が安く、生活に余裕がないなどの項目は、50代から下の世代において相対的に高くなる傾向にある。

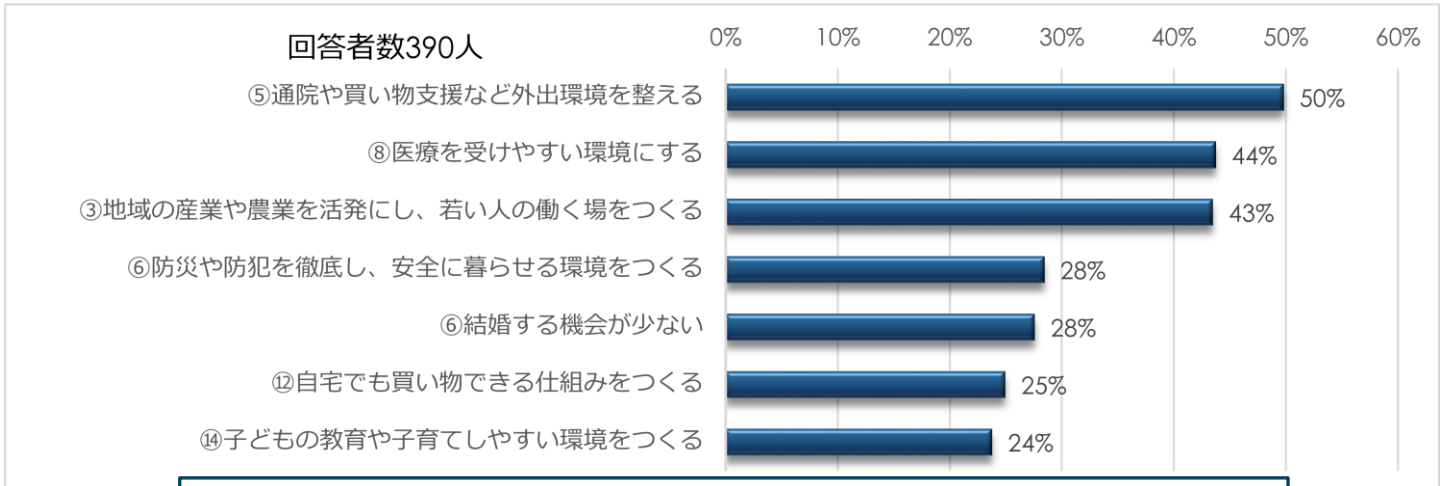


生活するうえで、困ること不安なこと（上位7項目） 表1

# 地域づくりについて

## 1 住みよい地域であるために大切だと思う取り組み（表2）

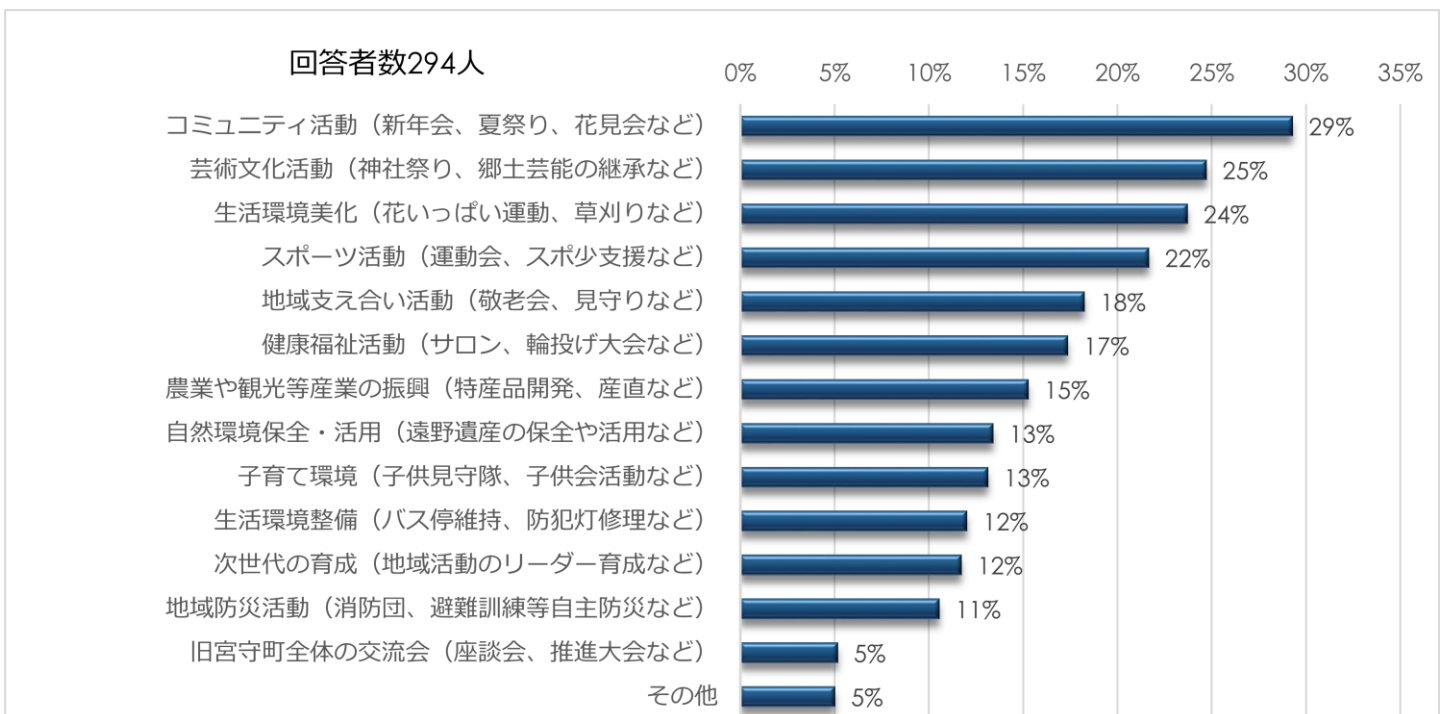
生活するうえで、困ること不安なこととして、全世代で高い傾向にあった外出環境の整備が、住みよい地域であるために大切だと思う取り組みとして最も高く、全世代で高い傾向であるが、特に70代以上の世代では60%以上となっている。「医療を受けやすい環境にする」、「地域の産業や農業を活発にし、若い人の働く場をつくる」の2項目も、全世代を通して高いが、医療環境の整備は、高齢世代になるにつれ高く、産業振興・若者雇用の場の創出は、若年世代になるにつれ相対的に高い傾向となっている。また、男女別の分析では、外出環境の整備及び医療環境の整備の女性の回答が男性の回答に比べて5%程度高く、産業振興・若者の雇用の場の創出については、男女の回答に差異はみられなかった。



住みよい地域であるために大切だと思う取り組み（上位7項目） 表2

## 2 どんな活動なら参加してみたいか（表3）

コミュニティ活動が最も高く、全世代で総じて高い傾向にある。そのほかの項目では、若年世代ではスポーツ活動、70代以上では健康福祉活動が高いなど世代間で差異がある。本質問は、他の質問に比べて有効回答数が少なく、「その他」の意見の中に、イベントや役をいくつも持つことによる負担感から、活動自体への拒否感を示す回答もみられた。



どんな活動なら参加してみたいか 表3